

アストゥリアスの シードル文化 とは？

ユネスコにより「人類の無形文化遺産」に
登録されました

アストゥリアスのシードル文化 - 人類の無形文化遺産



アストゥリアスXXI財団
www.fundaciónasturies.org
fasturies21@gmail.com

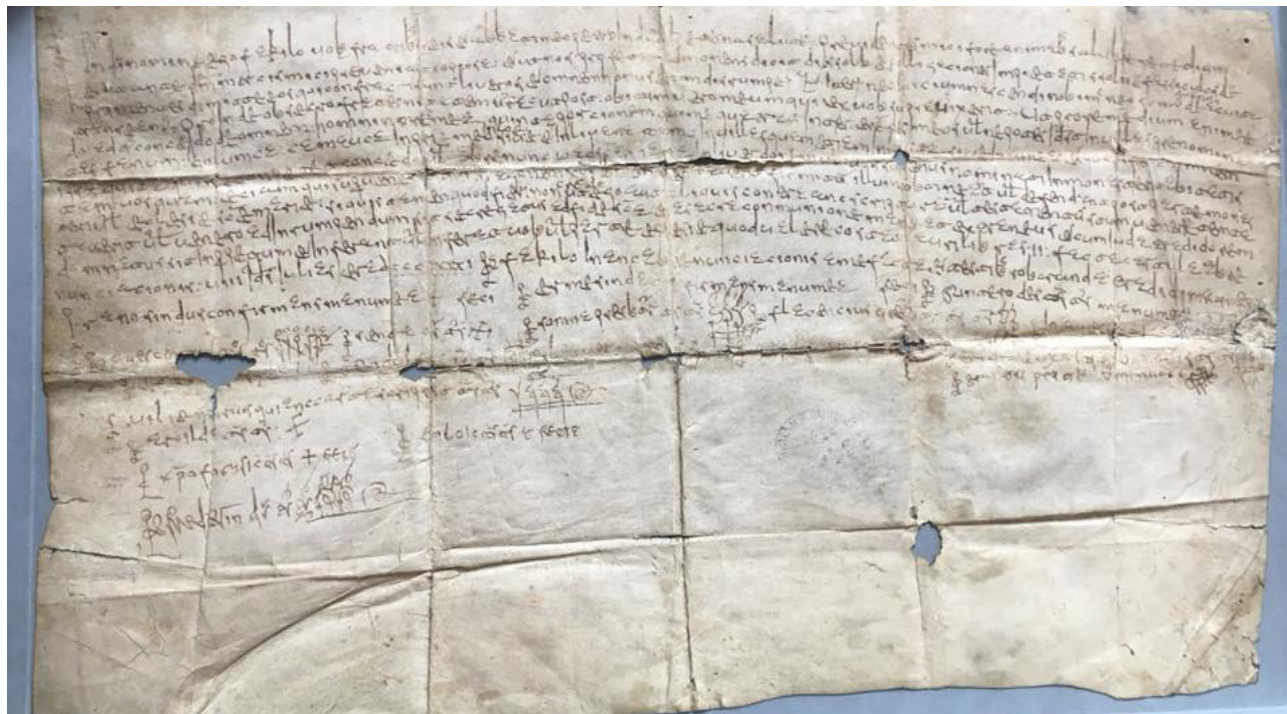
本書は、アストゥリアス自治州政府の文化・言語政策・観光局の助成を受けています

はじめに

アストゥリアスにおいて、シードルは単なる飲み物ではありません。アイデンティティ、共同体、そして生きた一貫した歴史の象徴です。古くからシードル文化は、この地の風景、経済、社会関係に深く組み込まれてきました。

祭りや祝い、共に過ごすひとときにはいつもシードルがあり、アストゥリアスの人々の日常生活と密接に結び付いています。それは、本質的な特徴を失うことなく、伝統と革新を結び合わせながら絶えず発展する文化です。

本書の目的は、シードルを取り巻く価値、知識、工程を紹介し、文化的・社会的財産としての役割を明らかにすることです。



歴史的起源

アストゥリアスのシードル生産は古代にまでさかのぼると考えられます。紀元前1世紀、地理学者ストラボンはアストゥレス人の飲用について、「アストゥレス人はシードルを飲み、ワインは持たない」と記しました。

アストゥリアス王国の時代には、シードルとリンゴの存在を証明する最初の文書が現れます。現存するリンゴ園に関する最古の記録は西暦781年で、オビエドの町とサン・ピセンテ修道院の創建文書に記されています。

一方、「シードル」という語が初めて現れるのは、790年に作成されたティネオのサンタ・マリア・ラ・リアル・デ・オボナ修道院の創建文書です。

その後何世紀にもわたり、シードルは世代から世代へ受け継がれるアストゥリアス文化の特徴的な要素となりました。



リンゴ園

アストゥリアスの農村景観を特徴づけるのが、ブマラーダと呼ばれるリンゴ園です。それは伝統的な農業体系の重要な一部であり、アストゥリアスの家族農家を経済的に支えてきました。

ラシャオ、ブランキナ、シュアニナ、レゴナなど、1,000種を超える在来リンゴ品種が知られています。それぞれに固有の性質があり、造られるシードルの風味と品質を決定します。

リンゴ園の手入れは親から子へ伝えられる家族の伝統であり、アストゥリアスの気候と地形に適応した農法が用いられています。



リンゴの収穫と圧搾

リンゴの収穫は主に9月から11月に行われます。家族や醸造所は手作業でリンゴを集め、場合によっては機械も使用します。

洗浄・選別したリンゴを砕き、圧搾します。木製の伝統的な圧搾機は、家庭の醸造所だけでなく、一部の産業的な醸造所でも現在なお使われています。

圧搾して得られるのが「シドラ・ル・ドゥエルヌ」または「甘いシードル」です。子どもも飲むことができ、自然発酵によってシードルになる出発点です。



リャガール：シードルの心臓部

リャガールはシードルを造る場所です。産業施設の場合もあれば、小さな家族工房、さらには共同で使う地域施設の場合もあり、後者は「デ・ベセロス」と呼ばれます。

石造りで北向き、開口部が少なく、半地下で天井を張らず瓦が見える造りのリャガールでは、発酵、澱引き、瓶詰め・打栓を管理します。温度、換気、湿度などの環境条件は、シードルの品質と熟成に直接影響します。

多くのリャガールは地域の人々や来訪者に扉を開き、文化、記憶、参加の場となっています。



エスピチャ - シードルに命を吹き込む集い

エスピチャは、アストゥリアスのシードル文化で最も生き生きとした庶民的な表現の一つです。伝統的には、共同作業への謝礼として、または新酒を樽から直接味わう集まりとして行われ、家庭料理、音楽、語らいを伴いました。通常はリャゲールや共同空間で開かれ、農業と地域社会の暦の節目を示しました。工業化以降は商業的側面も発展し、重要な文化産業となりました。

祝祭の場を超えて、エスピチャは共同体、平等、歓待の価値を体現します。人々はそれぞれのペースで飲み、食べ、一口分のシードル「クリン」、歌、会話を分かち合います。社会的な結び付き、口承、世代間交流を強める場でもあります。

現在、エスピチャは文化・観光・ビジネスの資源にもなっています。家族の祝い、公共行事、教育事業などが、その形式を共生、共同体のアイデンティティ、知識の継承、シードル文化の普及に活用しています。



チグレ：庶民のシードルの殿堂

チグレは単なるバーやレストランではなく、交流、文化、アストゥリアスの庶民生活を支える真の空間です。ここではシードルが主役となり、高い位置から注がれ、会話、歌、卓上遊戯、気軽な出会いに寄り添います。

歴史的にチグレは自由の場であり、労働者階級、農村の若者、文化運動のよりどころでした。政治談議の場、伝統音楽の避難所、小規模な地域行事の舞台として機能した例も少なくありません。

最も伝統的なチグレは、樽、木製カウンター、アストゥリアス語の掲示、温かな雰囲気という独自の美学を保っています。シードルの生態系の一部として庶民の知恵を伝え、人々を日々の生きた形でシードル文化に結び付けています。



ボトルとグラス：図像性と機能性

アストゥリアスのシードル文化は、道具の文化でもあります。ボトルと専用グラスは、その視覚的、機能的、儀礼的なアイデンティティを形づくる固有の要素です。この象徴的な組み合わせなしに、シードルを注ぎ、飲む行為を理解することはできません。それは民衆の知恵が残した物質的遺産でもあります。

伝統的なボトルは「モルデ・フィエル（鉄型）」と呼ばれる濃緑色のガラス製で、広い口と円筒形を持ち、容量は0.7リットルです。何十年も変わらないこの形は、垂直に注ぎやすく、液体をグラスの縁に当てた際に素早く空気を含ませるために設計されています。



広く普及したことで、このボトルはひと目でアストゥリアスを想起させる視覚的アイコンになりました。

シードル用グラスは口が広く、側面がまっすぐで、高さ12～13cm、直径9cm、平均容量50clです。エスカンシアードのために考案され、シードルの泡が立って消え、香りと天然のガスが開くように作られています。

高い位置から注ぐ儀礼と、約100mlをすぐに飲む「クリン」の習慣によって、グラスは交流の媒体となります。グラスを共有すること、注いでもらう順番を守ることは、チグレの暗黙の社会規範です。ボトルとグラスは工芸、イラスト、アストゥリアスの大衆的な視覚文化にも登場します。



シードルを注ぐ技

シードルを高い位置から注ぐことは、技術であり芸術です。一定の高さから注ぎ、グラスの縁に当てることで、液体に酸素を含ませ、香りを引き出します。

正確さ、知識、熟練を要する一方、シードルと伝統への愛情を表現する方法でもあります。それ自体が見せ場であり、シードルを分かち合う社会的儀礼の一部です。

この注ぎ方は認められた芸術であり、注ぎ手の大会には多くの参加者と観客が集まります。厳格な規則と採点制度を備えた公式大会は、卓越性を促し、職業としての価値を高めています。



プロの注ぎ手も、自然にボトルを手にする人も、シードルを日常の慣性ではなく、共に祝う行為として生きる人々の姿を表しています。

注ぎ手は単にシードルを提供する人ではありません。技の守り手、伝統の大使、そしてアストゥリアスのシードル文化を支える重要な存在です。その姿勢、確かさ、動きには、長年の練習と献身が表れます。

注がれた「クリン」は、シードルの性質が失われる前に飲まなければなりません。注ぎ、注ぎ手から飲み手へ直接グラスを渡し、グラスを共有する一連の動きは、シードルを飲む行為を、時間、会話、文化を分かち合う共同体の営みに変えます。



家庭製シードル：生きた共同体の伝統

家庭製シードルは、アストゥリアスで最も古く真正なシードル生産の形の一つです。個人のリャガールで伝統的な道具を用い、家族での消費、地域の祭り、近隣のエスピチャのために造られます。各家庭に秘伝と好みのリング品種があり、唯一無二の「作者のシードル」が生まれます。

産業的な規格はありませんが、自然の循環への敬意、受け継がれた知識、近隣同士の協力、非商業的なシードル観という共通の文化規範があります。家庭醸造への参加は、年長者、若者、子どもが協力する家族と地域の結束の儀礼です。

家庭製シードルの団体はますます存在感を増し、この遺産を可視化し、コンクールを開き、新たな造り手を育て、知識の継承を促しています。家庭製シードルを守ることは、アストゥリアスの生き方、分かち合い方、感じ方を守ることであり、アストゥリアスのシードル文化を支える柱でもあります。



シードルの種類

チグレは単なるバーやレストラン以上のもので、真の空間です。伝統的なナチュラルシードルは最もよく知られ、アストゥリアスのシードル文化の基盤となっていますが、発泡性、アイスシードル、オーガニックなどの種類もあります。果実味を強調したものや革新的なニュアンスを持つものもあります。

種類ごとに製造工程と対象となる消費者が異なります。この多様性が、新しい飲み方への適応を強めています。

アイデンティティを失わず市場を広げるため、缶入りや小瓶などの新しい形態も生産されています。



シードルの祭り

アストゥリアスの暦では、シードルが数多くの祭りの主役です。聖週間の「ラ・プリメル・シドレ・ラニュ（その年最初のシードル）」が、シードルの季節の幕開けを告げます。

ナバ・シードル祭、ヒホン・ナチュラルシードル祭、ビリャビシオサ・リング祭が特に有名ですが、アストゥリアスのほぼ全域で試飲、コンクール、注ぎ手を伴う催しが開かれます。

これらの祭りは、文化を主張し、経済を活性化し、共同体の知識を伝える機会です。

伝統音楽、舞踊、工芸市、民俗芸能も多く、総合的な文化体験を生み出します。



シードルとアストゥリアス語

アストゥリアス語はアストゥリアスの言語であり、この地の暮らしのあらゆる要素が、その言語で表現されます。

シードル文化は、この国に存在する言語差別に対し、アストゥリアス語が最もよく生き残っている領域の一つです（アストゥリアス語は今なおアストゥリアスの公用語ではありません！）。シードルの専門語彙は、全世代で生き続ける伝統語彙の一部です。評価、分類、鑑定のための極めて豊かな言葉があります。

言語を伴わずにシードルだけを保存することは、その魂の一部を失うことです。だからこそ、シードル産業のあらゆる段階でアストゥリアス語を守り、取り入れることが不可欠です。



シードル文化における女性の知恵

女性たちは歴史的にリンゴの栽培、選別、加工に携わり、シードルに結び付く知識と習慣を口承で伝えてきました。

しかし、リンゴ栽培者、造り手、注ぎ手、研究者、文化の伝え手としての存在と主導的役割が可視化されたのは、ようやく近年のことです。

現在、造り手、注ぎ手、研究者、教育者、シードル文化の推進者として活動する女性は着実に増えています。研修、コンクール、可視化のネットワークは公平性を強め、シードルの世界における女性の不可欠な役割を認めています。

女性の知恵を認めることは公平性に貢献し、シードルの世界が持つ共同体的・社会的な側面を強化します。



アイデンティティの象徴としてのシードル

アストゥリアスの集合意識の中で、シードルは起源、根、共同体、尊厳、文化的抵抗、分かち合う喜びなど、多くのものを表します。

祝い、エスピチャ、公式な歓迎の場に「クリン」がないことはありません。シードルは言語にも日常生活にも表れる帰属のしるしです。そこには、伝統を守りながら進歩を拒まない人々の誇りが映し出されています。

芸術、音楽、文学でも繰り返し扱われ、伝統歌、都市彫刻、ことわざがその存在を証言しています。

シードルはアストゥリアスの内外で、社会を結び付ける要素であり、象徴的な表現でもあります。移民共同体、文化行事、あらゆる場でアストゥリアスのアイデンティティを強める催しに存在します。したがってシードルは単なる飲み物ではなく、共同体の比喩であり、強い文化的象徴であり、共有された記憶を守る盾なのです。



シードルと農村・環境の持続可能性

シードル文化は、アストゥリアスの伝統景観に組み込まれた農業モデルです。そこでは環境への敬意から、持続可能性が自然に生まれます。

草地や家族所有の農地に植えられた伝統的なリンゴ園は、生物多様性を支え、鳥、昆虫、小型哺乳類の生息地となります。在来品種は害虫や病気への抵抗力が高く、集約農業ほど多くの化学的処置を必要としません。

シードル造りでは、マガヤと呼ばれるリンゴの搾りかすなどの有機残渣が生まれ、畜産、堆肥化、自然派化粧品生産に再利用されます。

この循環経済の考え方は廃棄を最小限にし、リャガールを環境効率の好例にします。オーガニック認証を取得し、水の再利用や太陽光エネルギーの仕組みを導入して、環境負荷の低減を図る醸造所もあります。



さらに、伝統的にシードル瓶を再利用してきたため、100年前のボトルが今も現役で使われています。持続可能性の具体的な事例です。

農村の持続可能性には社会的側面もあります。シードルは他地域へ移転できない経済活動を生み、住民の定着を促し、人口減少に脅かされる地域で雇用を創出します。伝統的なシードル農業は、自然を尊重する家族の知識に基づき、文化、経済、環境の均衡を示す生産モデルとなっています。

持続可能性は、アストゥリアスのシードルの過去と未来を結ぶ価値です。実りを与える土地を守ることは、この遺産の継続を保証し、次の世代もその恩恵を享受できるようにすることです。



芸術と視覚的創造性

視覚芸術も、アストゥリアスのシードル文化が象徴的な豊かさを表現する場です。絵画、彫刻、版画、写真、映像制作では、シードル、リンゴの木、造り手が、あらゆる世代の芸術家に着想を与えてきました。

シードル文化の要素は、帰属、アイデンティティ、農村世界の主張を表す象徴として描かれることが多くあります。古典的な注ぎ手の姿から、リンゴやシードル景観の現代的解釈まで、芸術はこの世界を強め、読み替える役割を果たします。

絵画では、アストゥリアス美術が何世紀にもわたってシードルの世界に強い関心を示してきました。バジェ、ピニョレ、モレ、バケロ・パラシオスなどの芸術家は、作品にシードルをめぐる題材を取り入れました。



チグレ、リンゴの粉碎、リンゴ園での作業などの場面は、深い象徴性と美的価値をもって描かれています。民衆画や民族誌的な絵画でも、シードルは繰り返し登場する題材です。

文化センター、博物館、芸術家集団は、シードル文化に結び付くテーマ展や事業を推進してきました。芸術が無形遺産を伝える強力な手段であることを示しています。シードルと芸術は共に、見えないものを可視化し、生きた伝統に声を与えます。

アストゥリアスXXI財団は、1980年以前の資料を収めるシードル写真資料館を維持し、16年間にわたり「LA SIDRA国際写真コンテスト」を開催するとともに、受賞作品展を行っています。



音楽と大衆文化

音楽はアストゥリアスのシードル文化で基本的な役割を担います。多くのエスピチャ、祭り、シードル行事では、伝統歌、バグパイプ、太鼓が催しに寄り添い、共同体意識と共有のアイデンティティを強めます。

チグレの歌、アストゥリアスのトナーダ、その他の伝統曲は、即興的な集団で歌われ、観客も積極的に参加します。専門家によらずとも心のこもった音楽表現は、景観、飲み物、共同生活への愛情を表す方法です。

アストゥリアスの音の象徴であるバグパイプから、シードルと伝統に触れる現代曲まで、音楽は価値、記憶、感情を伝える媒体であり続けました。吹奏楽団、合唱団、地域の芸術家もこの世界を豊かにしています。

シードルの世界に結び付く新曲の創作を促す取り組みもあり、ナバ、ヒホン、ビリャビシオサなどの祭りは音楽プログラムを組み込んでいます。音楽はシードルと同じく、心から注がれる文化の不可欠な一部です。



シードルとアストゥリアス移民

19世紀末から20世紀初頭にかけて、何千人ものアストゥリアス人がアメリカ大陸へ移住しました。それ以前から続く大きな移動の流れです。彼らは荷物とともにシードルの伝統も運び、とりわけアルゼンチン、キューバ、メキシコ、ウルグアイに根付きました。

一部ではリャガールが設けられ、アストゥリアス人団体が作られ、儀礼、語彙、故郷のしるしとしてのシードルへの愛好が守られました。とりわけ、アメリカ各国のアストゥリアス人社会の需要に応えるため、シャンパン風の発泡シードル産業が発展しました。

この現象により、シードルは国境を越えるアイデンティティの象徴となり、移民の共有記憶を強めました。

現在、アストゥリアスの若者の50%が移住を余儀なくされる中でも、シードルは移住者同士、そして移住者とアストゥリアスを結ぶアイデンティティの象徴であり続けています。



シードルから生まれる社会革新

シードルは、地域活動、教育、社会包摂の事業を生み出す媒体です。社会的なリャガール、世代間ワークショップ、文化ルートは、多様な人々の参加を促します。

シードル文化は、とりわけ経済的に脆弱な地域や人口減少地域で、社会参加、就労、教育を活性化する原動力となり得ます。

シードルに結び付く社会革新を強めることは、地域のエンパワメント、参加、創造性への道です。



教育と博物館

アストゥリアス・シードル博物館や各地の解説センターなどの施設は、重要な教育的役割を果たしています。

「シドロコレス」のような取り組みは、長年にわたり学校見学、教育ワークショップ、さまざまな対象者向けの活動を組織し、理論、実践、文化体験を結び付けてきました。

また、新たに始まった「シードル・ソムリエ学校」は、アストゥリアスのシードル文化を現代の科学的・技術的進歩に適応させる重要な一歩です。

アストゥリアスのシードル文化について学ぶことは、遺産への敬意と責任ある愛好を育み、新しい世代が自らのアイデンティティとつながる助けになります。



研究の役割

オビエド大学からヨーロッパのプロジェクトまで、シードル研究は農業、栄養、観光、民族誌、文化など幅広い側面を扱います。

シードル講座は応用知を生み出し、それを普及資料、教材、学術出版物へと転換します。

科学と伝統の対話は、敬意ある革新と、この遺産を忠実に伝えるための鍵です。



シードルとアストゥリアス料理

シードルは、アストゥリアスの大地への賛歌ともいえる代表料理に寄り添います。ピカディージョを添えたトルトス、ファベス、ウニ、ガモネウ、カブラレス、カシンなど土地のチーズとの組み合わせは自然で、食体験を豊かにします。

シードルは料理に合わせるだけでなく、食材にもなります。シードル煮のチョリソ、メルルーサ、アサリなどは完全に伝統的な料理です。可能性は広がり続け、ナバの「シードル料理週間」は40回を重ねています。

菓子、創作料理、現代的なカクテルにも使われます。とりわけ農村の飲食店は、地域のアイデンティティを表すメニューの一部としてシードルを取り入れています。

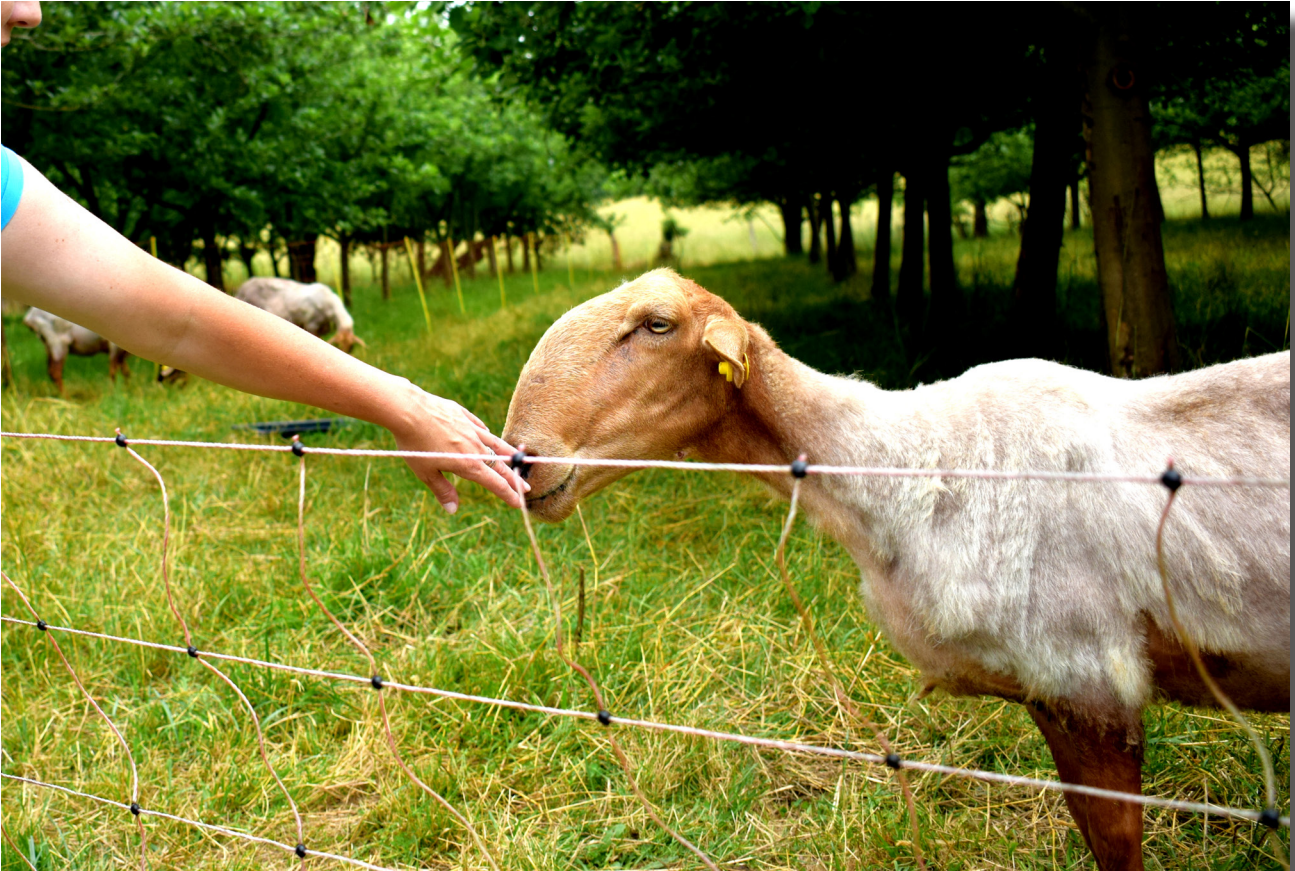


シードルと文化観光

シードルは第一級の観光資源です。「チーズとシードルのルート」、リャガール見学、エスピチャ、民衆祭などが毎年何千人もの人々を引き付けます。

アストゥリアスのアイデンティティと環境を尊重する質の高い観光は、食、景観、伝統、地域の歓待を結び付け、持続可能な収入と地域の発信を生み出します。

シードルに結び付く観光活動は、試飲、ワークショップ、没入型体験、テーマ行事など、絶えず多様化しています。



シードルと新しい農村社会

人口減少と農村の変化が進む時代に、シードルは地域振興の手段となります。土地に根差し将来性のある事業を求める新しい生産者、起業家、若者を引き付けます。

新世代のリャガール、協同組合、若者の起業事業は、シードルを経済・社会の原動力として再活性化しています。

その結果、雇用と付加価値を生み、村の共同生活を強めています。



シードル産業の課題

機会がある一方、産業は多くの課題に直面しています。アストゥリアスの若者の強制的な移住、文化の同化・希薄化、専門性の不足、市場の多様化、気候変動、国際的評価をさらに高める必要性です。

消費者教育の充実、分かりやすい表示、不公正な競争から産業を守ることも求められています。

行政、団体、各リャガールは、アストゥリアスのシードルの豊かな未来を保証するため、協力して取り組まなければなりません。



地域社会の参加

シードル文化は専門家だけのものではなく、何よりも人々のものです。シードルを注ぐ人、リンゴの木を植える人、エスピチャで歌う人の一人ひとりが、この遺産の担い手です。

住民参加事業、伝統知の学校、家庭製シードル団体、注ぎ手の団体などは、共同体による関与の生きた実例です。

人々の主体性と口承を促すことは、文化を未来へ残すために不可欠です。



機関と団体

アストゥリアスのシードル文化の発展と保護は、機関、団体、地域グループの連携なしには実現できません。原産地呼称保護（DOP）「シドラ・ダストゥリエス」は、アストゥリアス産リンゴで造られるシードルの品質を規制し、普及する重要な組織です。

また、アストゥリアスXXI財団、シードル注ぎ手協会、シセラトレス騎士団、家庭製シードル協会、食文化団体なども活動しています。



ユマイ騎士団、農村女性のネットワーク、博物館、解説センターなどは知識を広め、地域参加を促します。これらの団体はコンクール、教育ワークショップ、エスピチャ、啓発キャンペーンを企画しています。

公共部門と民間部門の協力は不可欠です。自治州政府の各局、市町村、ヨーロッパの機関は、シードル体系を文化・経済の原動力として再活性化するため、資金と事業で支援しています。



国際的な展開と評価

アストゥリアスのシードル文化がユネスコの「人類の無形文化遺産」に登録されたことは、アストゥリアスのシードル史、そしてシードル全体の歴史における画期的な出来事です。この製品を中心に固有の文化環境が生み出されていることが認められたからです。

ユネスコの評価は、すべてのアストゥリアス人と世界のシードル愛好家にとって喜びであると同時に、その維持と発展を保証する責任でもあります。その課題にはアストゥリアス社会全体が関わっています。



アストゥリアスのシードルが国際的に姿を見せ始めたのは19世紀ですが、近年その展開は著しく進んでいます。国際行事に参加し、15年前からは「国際ガラ・シードル・サロン」を開催して、アストゥリアスを世界各地のシードルが出会う場所としています。

一方、ヨーロッパ・リンゴとシードルの都市ネットワークは今年アストゥリアスで発足しました。アストゥリアスの市町村に加え、バスク地方、カナリア諸島、ポルトガル、フランス、イタリア、チェコから参加があり、シードルとその文化の国際的な普及に向けた重要な取り組みです。



結び

アストゥリアスのシードル文化は、この地の歴史と日常生活に深く根を張る、複雑で豊かな世界です。リンゴ園からシードル酒場で分かち合う一杯の「クリン」まで、一つひとつの所作には、世代を超えて伝えられた知恵、共生、祝祭の長い歴史が宿っています。

この文化の一員であることは、シードルを飲む以上の意味を持ちます。その価値を理解し、起源を尊重し、継承に参加することです。地域のものが普遍的になり得ると認め、アストゥリアスのシードルを守ることが、より人間的で共同体的、持続可能な生き方を守ることだと知ることです。

ユネスコの評価を得た今こそ、その活力をさらに強める時です。機関、生産者、家族、来訪者、市民の一人ひとりが、保護と未来への発信に重要な役割を担っています。

**アストゥリアスのシードル文化を
知り、味わい、広めてください。
私たちが一杯の「クリン」を注ぐたび、
受け継ぐのは記憶、
アイデンティティ、そして未来です。**



協力



HOSTELERÍA Y TURISMO
CENTRO INTEGRADO DE FORMACIÓN PROFESIONAL



catedrasidradeasturias
Cátedra Sidra de Asturias

